

特116

386

勿勿庵

野曾原備山著

他山之石



始



共三

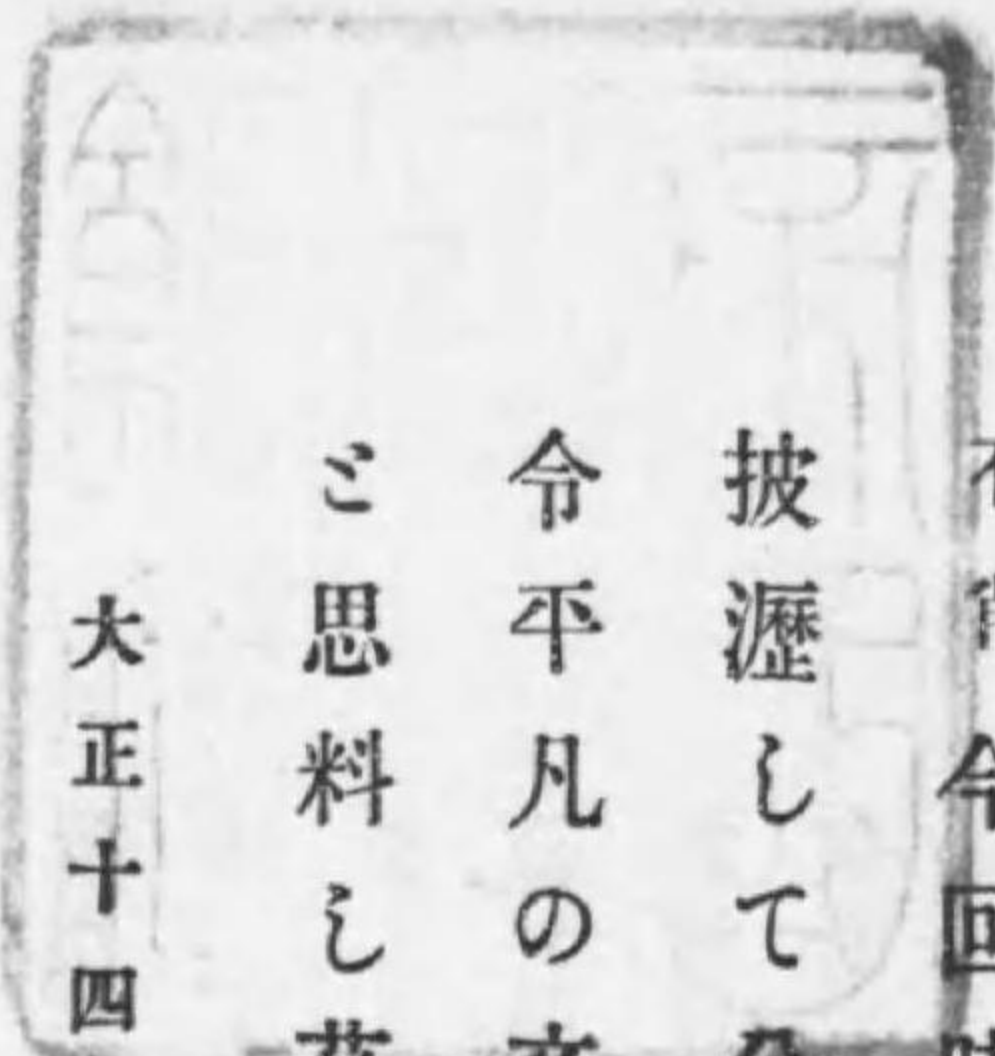
文雅研想
風藻遠懷

煮眼

時

惠

持116
386



不肖今回時事に感ずる處あり非才短識を顧りみす所思を
披瀝して公覽に供し以て社會奉仕の微誠を竭さんごす候
令平凡の文辭たりご雖ごも或いは他山の石ごもなら
ご思料し茲に單行本を發刊する所以なり

大正十四年八月

自序

野曾原 備山

謹識

大正
14. 9. 25
内交

野曾原 備山
自序

勿勿庵 野曾原備山著

目次

人間	一
宗教	一
南無大慈大悲觀世音菩薩	二
慈悲信仰	二
祖先崇拜	三
忠孝	三
婦人	四
婦人道徳	五
婦道修養	五
婦女之守訓	六
親族	六
天分	七
娛樂	七

五大
交内

處世	七
交際	八
讀心術	八
講話	八
敬老	九
四十七士	九
不言實行	〇
運動	〇
衛生	一
麥飯常食	一
細民救助	一
葬儀	二
冥土	三
節約	三
生活難	三
丁稚教養	四

廢物利用	一四
噓之効力	一五
贈答	一五
浪花節	一五
無學之學問	一六
角力	一六
易學	一七
運命	一八
質屋公設	一八
風景	一八
櫻花國	一九
菊花國	一九
酒	二〇
美人	二〇
戀愛	二一
色情	二一

刑罰	一一一
殺生	一一一
後進部落	一一三
寸鐵錄	一一三

附 錄

詩	一
和歌	四
俳句	五
大津繪	六

人 間

人間一度婆娑に誕生したるは何の爲めか造物主と雖も恐らく明確なる回答に苦しむるへし男性と云ひ女性と云ひ又夫婦と云ひ子々孫々まで連綿として繼續するは果して何の爲めか互に名聲を揚げ富貴に勝ち益家運の長久ならん事を欲すればなり而して骨肉相分離して一家を創設し以て將來の榮達を計らんとす前途遼遠にして頗る多幸なりと云ふべし而して慾望は各自に横溢して遂に家族相闘々の結果を呈するは數の免がれざる處にして古來歴史を繙くに源平北條其他何れも衣食足つて其覇を争はんとするは人情の然らしむる處優勝劣敗如何とも致方なし抑も人間の本領は無限に向上發展するものにして就中智情意の圓滿發達は他の下等動物と全然其趣むきを異にし一身を修進し一國を富強にし秩序を維持し風俗を善導し追次進歩改造以て其基礎を鞏固にし禮儀交際を尊重し百尺竿頭一步を進めて國家觀念に推移り忠君愛國の實を擧ぐるに在り茲に於て漸やく人間の資格を具備するに庶幾乎』

宗 教

宗教は一身の修養上極めて廣大無邊にして其感化する處又實に偉且大なり釋迦と云はず親鸞と云はず弘法と云はず日蓮と云はず尙ほ儒教と云はず各自其歸嚮する處に随がつて歸依するは終世安樂に愉快に生活せられ安心立命の基礎此に胚胎す故に常に幸福に安全に生涯を完ふする事を得る而已ならず宗教を尊

重する人に犯罪者尠なく道徳上最も必要なる教諦にして一日も之に離る可からず人間必須の教本として是非信仰せざる可からず』

南無大慈大悲 觀世音菩薩

菩薩の功德は高大無邊にして善男善女俱に禮拜する處にして諸願成就一に菩薩の基づく處なり故に其徳を慕ふて賽せざるなし敬せざるなし獨り願望のみならず精神修養上最も効果あり朝夕西方を禮拜して其功德を享有する難有さを感謝せざる可からず據つて以て心神休軀康安枕を高ふして眠るべきなり要するに生命を倚頼する守本尊にして平素菩薩を信仰して後世を托すべし』

慈悲信仰

按するに天照皇大神は極東の邦土を統御し賜ふに際し太陽は東より西に入り其光被する處森羅萬象之により培育し且つ風靡せざるなきと同時に世界も亦大日本帝國の稜威により撫順せらるゝものと確信し以て其時機を期待せり然れ共其期待に添ふには確たる方策なかる可からず此に於て慈悲信仰の胚胎する所以なり然らば慈悲信仰なるものは如何なるものを指示するか無論道徳の範圍に於て之を實現せざる可からず所謂五倫五常の道を發揚するに在り就中大和魂は我邦道徳の眞髓にして千載犯す可からざる大精神なり故に疑つては百鍊の鐵となり散つては萬朶の花となり死を見ること歸するが如く以て君命に殉ず故

に各戰役に大捷を博し彌益國威を列強に輝やかす寔に故なきに非ざるなり由來我邦臣民は尙武仁愛の氣象に富み一般任俠熱血挫強扶弱其餘風流れて現代に至る彼の元祿快舉又は幡隨院長兵衛の如き顯著なる其一例なり加之我邦は家族本位にして西洋の如き個人本位と全然其趣むきを異にす故に君民親子の誼敦且厚なり然るに戰後世は大平に馴れ浮華輕佻道義滔然として地を掃い倫常又頹廢の傾向を呈するは大に浩嘆に堪へざる處なり輓近時難日に亞ぎ識者の鑿鑿する秋に際會し慈悲信仰の妙諦に倚頼して各自自衛以て國家を擁護し益國威を内外に發揚せん事を翹望す』

祖先崇拜

我國建國以來二千五百有餘年一天萬乘の皇室を拜戴し炳として日月の如く其神聖なること實に世界に冠絶たり宜なる哉大和魂の流露する處能く忠に能く孝に古來の美風綿々として斷絶する事なし故に四海平靜富國強兵も亦故なきにあらず降つて吾々子々孫々に至るまで其良風を繼承し連綿として幾千代に涉り顯家名門は多く祖先崇拜の賜物にして後來幾久敷之を嚴守し一家を繁榮にし一身を整頓し一朝緩急あらば義勇公に奉ずる覺悟なかる可からず據之邦家を九鼎大呂よりも重からしむべし』

忠孝

我邦神武天皇開闢以來二千五百八十五年皇統連綿として一絲亂れず金甌無垢の國体を以て人皇百二十三

代に及ぶ其間治亂興亡の跡を襲踏して明治大正の聖代に至る畏れ多くも 明治天皇陛下は不出世の英資を以て天下に君臨し賜ふ天性聰明に渡らせられ明治維新の洪謨を啓かせ賜い殊更宸襟を惱ませられ洵に恐懼に堪へざる處なり而して御治世中日清日露北清等の戦役に大捷を博し萬歳聲裡に終局を告げたり之れ天祐の然らしむる處なりと雖も亦 陛下御稜威の發揚に基くものにして寔に畏れ多き次第なり降つて大正年代に推移し畏れ多くも 今上天皇陛下壯少の御身を以て即位に就かせ賜ひ萬機を親裁し賜ふ計らざりき玉体違和遂に攝政宮殿下をして代つて國政を料理するの止むなきに至る洵に恐懼不能措處なり然れども歐洲戦亂に参加して勝利を收め以て君民の本分を盡くす惟ふに忠孝は我國体に伴ふ固有の天則にして日本帝國の威武を世界に輝やかすこと寔に故なきにあらず就中忠臣は多く孝子の門より出づ故に忠孝は車の兩輪の如く鳥の兩翼の如く一身同体離る可からざるものなれば益々古來の大和魂の精華を發揮して未來永劫無窮に邦土を泰山の安きに置き以て永遠に持續せん事を欲す』

婦 人

婦人は一家の基礎にして其行動如何は據つて以て家門の消長に關すること大なり特に良妻賢母として夫を扶掖し子女を教養し家庭の圓滿と發達を謀る其責任や大なり故に家庭を嚴肅にし益其繁榮を期せざる可からず家庭にして紊亂せんか忽ち子女の素行を傷つけ將來の爲め太甚だ憂慮に堪へざるものあり顯榮の地位に登り巨萬の富貴を贏ち得るも最初は家庭の教養如何に在り而して平素獨立自營の觀念を涵養し

一朝非常の場合に處しても何等躊躇せざる勇なかる可からず要するに妻として内助の實績を挙げ母として子女の成功を全ふせん事を熱望するものなり』

婦 人 道 徳

人情紙より薄き今日に在つては社會の道義滔然として地を掃ひ倫常は日を追ふて泯滅し風教は月に從がつて頽廢す故を以て不忠不孝不信不義の徒陸續として排出し更に其底止する處を知らず終に又再び善行佳績の美談を耳にす可からざるに至らん豈長大息に堪ゆへけんや况んや婦女子に於てをや熟々現今女流社會の状態を観察するに稍もすれば良夫に不貞ならざれば舅姑に不孝兄弟に不悌ならざれば朋友に不信其他節義を顧りみず或は淑徳を慮からず最も太甚しきに至つては濃粉輕裝淫聲放行聽者をして爲めに耳を掩はしむるに至るもの滔々天下比々として之あるに於ては誰か其破徳を痛嘆せざらんや冀くば大方諸媛自省以て日常の素行に對し慎重に留意せん事を望む』

婦 道 修 養

夫れ婦道は一國道義の基礎にして婦母の手訓素行は家庭の標階なり而して家庭の標階は延いて郷黨の模範となり遂に一國に及ぼすものなれば宜しく女徳を修進し世道人心の萎微衰退せる現時に在つては寔に焦眉の急にして特に國家の道義上一日も輕々に看過す可からざるなり今や世間幾多の婦女子にして貞婦

と云ひ淑女と呼び賢母と稱せらるゝ事の難き業己に斯の如し況んや愛國慈善忠孝兼備のものに於てをや願くは大方諸媛沈思默考以て顯著なる實績を挙げ衆婦の模範たらん事を禱るものなり』

婦女之守訓

夫は外に働らき婦は内を守り勤にして儉以て家庭を整理し子女を教養して他日の成功を期し時間を節約して無用の談話を避け努めて有益に利用し經濟を尊重して家國の富を増進するを要す特に一家一日の廢米十粒の流失又農家一期の收穫米の散逸を一升と假定すれば全國貳百幾拾萬圓の巨額に達するに至つては實に一驚を喫せざらんや故に瑣事として等閑に附す可からず常に心掛け置くべし今や社會問題頻々として勃發し之が解決も多く婦人に關するものは婦人自から之を處理し猶ほ進んで婦人會を開催し新智を啓發し機宜に應ずる處置を採ること又必要なり要するに婦人の責任は時勢の進歩に伴ない重大なるを思はざる可からず』

親族

華族の皇室に於ける藩屏たるか如く親族も亦本家を擁護するの義務あり根幹枯衰して枝葉の凋落せざるもの未だ之あらず同族より成功者を輩出すれば親族の榮譽となり失敗者を偶生すれば耻辱となる然らば常に本家を尊重し互に扶助提携して益々同族家門の基礎を鞏固にして以て堂々社會に對峙すべし』

天分

人間由來飲食物に於て好不好の區別ありて或者は強烈なる飲料を嗜なみ或者は濃甘なる食物を欲す之れ先天的に賦與せられたる持分して所謂本領を發揮するものにして決して怪しむに足らず斗酒の量あるものは夫だけ自然の領分あり多量の甘物を食はるものは夫だけ天然の持分あり自から備はれる天分にして敢へて咎むるまでもなし彼の老婆の蟹介の殻皮と俱に併食して瑣の害なく醫師は之を以て一種の嗜好性を有し有利に消化すと云ふ之れ固有の消化力を具備する持分にして敢へて驚くの要なし故に平素充分持分を攝取して活動を怠ること勿れ』

娛樂

娛樂は人間に取り必要にして精神界物質界何れにしても其關係大より小に至るまで千差萬別枚擧に遑あらず信仰に讀書に謠曲に詩歌に書畫に骨董に圍碁に將棋に其他遊藝に各自嚮ふ處に準じて慰安の道を講ずべし要するに精神上の快樂を享有するの高尙にして心神何時も綽々として光風霽月の如くなるべし』

處世

世渡りの上手下手は其間髪を容れざる處より發生す才不才賢愚は兎も角何時も愉快に快活に動作し其間

の呼吸真に微妙幽玄にして筆舌の能く盡す處にあらず處世術の容易ならざる決して無視す可からざるなり古來顯榮の地位に就くもの其始の微妙なる行動に出づるものなくんばあらず今や立身出世したるもの各自獨得の技能は要するまでなし彼の高位高官に上り今日を持続する事由茲に存す故に細心注意以て言語行動に氣轉を運用して人後に落ちざらん事を欲す』

交 際

交際の至難なる何人も苦心する處其如何に據り他日成功の端緒を啓き幾萬の讀書を涉獵する以上の好果を呈すべし毀鑑遠からず先輩諸氏多く之を利用して社會の勝者となるもの世間の實例に乏しからず故に常に慎重の態度を取り將來の成功を期せざる可からず』

讀 心 術

人と對座して先方の心裡を洞察するは洵に大切にして社交上寸時も忽諸に附す可からず就中感情を保維する点に於て最も大効あり彼の一を聞いて十を知るは格別難事に屬せざれども讀心術に至つては其難易輕重同日の論にあらず如何に座談に巧みなれども其要領を捕捉せざれば何等の效果を生せず徒らに賓客の歡心を買ふに止まり空しく相別るゝの失態を演じ休裁宜しからず常に心掛け置くの價値あり』

講 話

講話は人智を啓發し風教を善導し同時に社會の萬象を知悉する点に於て大なる効果あり故に常に名士知識を招聘して斯會を開催し以て之を實地に應用し一身を利し一國を裨補し益向上發展を謀らざる可からず輒近社會問題頻々として勃發し男女を問はず傾聽解決する意思なかる可からず猶は進んで篤志相會して審議し自他指導督勵以て時難を救濟するも亦機宜に適したる良策と云ふべし』

敬 老

耆老は人間一代の本分を襲踏したるものなれば大に敬愛尊重せざる可からず幾十年來苦楚を嘗め艱難と戦かい奮闘努力したるもの寔に敬慕に値いすべきものあり然らば時々一堂に會合して慰安會を催ふし歌舞音曲角力淨瑠璃其他諸種の遊藝を演じて心目を樂しましめ以て往年の勞を慰藉するは人間として老人に對する禮道を全ふするに庶幾乎』

四 十 七 士

元祿の快舉は開關以來の一大事變にして又絶後に於て再び之ある事なし實に主従の名分を明かにして武士の典型を後世に貽す寔に其功績や偉大にして億兆の師表とする處なり夫れ武士は我國の精華にして大和魂の發揚する處雲となり雨となり風となり縦横自在鬼神も爲めに三舍を避くるに至る大石良雄以下四十六士の誠忠は萬世を照して赫々の功績は衆庶の模範とする處なり宜なる哉文章に劇壇に浪界に其他

武士道の鼓吹に違なく其感化は三尺の童兒に及び能く教誨を千載に貽せし噫芝高輪泉岳寺畔苔深くして遺烈を偲ばしむこと大なり』

不言實行

古來言ふは易く行なふは難く幾多之を唱導すこ雖ども眞面目に之を實行したるものは洵に晨星の寥々たるが如し今假りに金儲に焦心するもの到る處異口同音餓鬼の如く慾望に戀々たり優勝劣敗の激甚なる今日又止むを得ざると云ふの外なし然れども徒らに努力せずして之を貪らんと欲するは恰かも木に縁つて魚を求むるが如く非望之より大なるはなし假令小事たりと雖ども忽かせにせず孜孜汲々として努力すれば期せずして目的の彼岸に達する事を得べし然るに漫然座遊して空想を夢み未來の成功を畫するは愚笑も亦太甚しく常識觀念あるものゝ爲すべからざる處なり要は不言實行而已』

運動

運動は血液の循環を旺盛ならしめ健康上一日も欠ぐ可からず歐米人は男女の別なく平素山河を跋涉して新鮮なる空氣を吸収し新陳代謝体力を涵養し元氣潑洩喜色滿面に溢ふる反之邦人は兎角屋内に蟄居して外出すること尠なく偶々之あるも神社佛閣に參詣するに止まり常に顔色憔悴して活氣乏し冀くは寸閑を利用して郊外に散策し心氣一轉健康を保維し以て天壽を全ふせん事を熱望す』

衛生

衛生の道一にして足らずと雖ども要するに暴飲暴食を節するに在り就中長夜不眠の遊興の如きは其害毒の身体に及ぼす影響や大なり然らば平素細心注意病魔を未前に防遏すること最善の手段にして而して日常の食餉は量を節し所謂腹八分の程度に止め濫りに不消化物の攝取を怠たる事なきは勿論一定の時間に睡眠するを要す彼の美酒佳肴の如きは何等の意義を爲さず據つて常に滋味に富み消化機能を最も安靜に働らかす事を第一と心得べし』

麥飯常食

麥飯は非常に滋養に富み消化も亦緩和的に降下し衛生上極めて有益なるものにして按ずるに欽明天皇の御宇百濟王に麥種を下し賜ふとあり然らば麥飯は我國古來の國食にして米飯は中古以降の慣用に屬するものなり因襲の久しき白米を常食すれば相當の階級を保たれるが如く史料し盛んに之を奨励したるが抑も身体を羸弱ならしむる主因となり年々歳々邦人の軟弱なるに至るは寔に浩嘆に堪へざる處なり今や積年の慣習は忽ちに之を改更すること稍難事なるべきを以て米麥兩種に配合して糞炊し以て常食とすれば衛生上多大の利益ありと知るべし』

細民救助

細民の生活は人生悲慘の極にして大に同情に値ひすべきものあり貧困は罪惡の母なり赤貧の爲め往々常道を逸し法規に觸れ縲紲の身に囚はるゝに至つては實に沙汰の限りにして特に地方の良俗を破壊し風教上大に注意せざる可からず川柳に「彼れも人の子樽拾ひ」と寔に這中の消息を穿ち得たる名句なり實に人生行路の困難にして苦楚慘憺たる憐情を垂るゝに吝さかならざるなり大方諸彦衣食を節し救助の實績を擧げ以て善良に導びくの同胞に對する責務たるを忘る可からず」

葬儀

人誰れか死なからん其天壽を全ふすると夭折するに據り長短の差別ある而已人生朝露の如く晨たに紅顔あつて夕べに白骨となり祇園精舎の鐘の聲諸行無情の響きあり娑羅双樹の花の色盛者必滅の理を現はす洵に無情の極と云ふべし就中葬儀は其人一代に於ける最後の大禮にして最も壯嚴に愼肅に哀悼の誠意を表せざる可からざるは勿論行列も成るべく靜肅に沈痛に野邊の送りを果さざる可からず彼の途中放談笑語御祭騒ぎの如き觀あるは虚禮の太甚しきものにして死者の菩提を吊する所以にあらず宜しく精神的に葬送せざる可からず特に世上稍もすれば葬儀を盛大にする傾向あるは大に考慮を要する價值あり如かず慈善事業若くは細民救助の道を講ずること反つて死者に對する禮道を全ふし死者も亦爲めに瞑すべきなり」

冥土

西方十萬億土之を稱して冥土と云ふ釋迦三千年來の淨域なり人間一度死すれば必らず此處に歸旅せざる可からず途中賽の河原あり廣漠遙かに人を見ず又三途の川あり六文錢を拂ふて渡り夫より死出の山に達す高大にして雲表に聳へ其秀靈なること娑婆に比類なし山麓に一里塚の名勝あり漸やくにして閻魔の廳に到る先立つて物故したる祖先骨肉知友に邂逅す嬉しきこと限りなし腐蝕したる娑婆の空氣より新鮮にして永遠に死後の靈骨を托すべき淨域なり古來幾千萬の生靈悉く此土に蝟集す斯かる極樂淨土へ一日も早く還相して娑婆の苦惱を脱するの勝れるに如かず噫」

節約

人誰れか災厄を蒙むるものなしと云はんや況んや天變地異に於てをや然らば平素蓄財に心をを用い非常の場合に處する覺悟なかる可からず古來恒産なきもの恒心なしと果して然らば自然廉耻を顧りみず遂に法網に觸れ囹圄の人と化するの例は世間に乏しからず假令零碎の瑣錢と雖ども粒々蓄積して歲月を經過すれば多大なる利殖を收むべし而して一朝緩急あらば國家に提供して國民の義務を盡くし以て奉公の赤誠を臻し國恩に酬ゆへし要は自己を安全に導びき國家を富ましむるに於て一寸も油斷ある可からず」

生活難

生活難は天下の聲にして上は知識階級より下は労働者に至るまで間断なく嘆聲を放ち煩悶の状態は大に同情に忍びざる處あり惟ふに人口の過剰が之が最大原因を爲すと雖ども同時に政府の消極策又與かつて力あり然らば之が救済方法は多々あれども差當り海外に移住して生活の安定を講ずるに在り滿洲朝鮮南洋等たる處利源を啓發し以て愉快に活動し寸時も早く島國根性を放抛し世界的眼識を以て大に海外に發展せざる可からず」

丁稚教養

丁稚は多く貧家の子弟にして直ちに商店に使雇せらるゝものにして常識觀念に乏しきは又止むを得ざる處なり然らば店主は一定の時間を與へ其道に關する知識を修得せしめ以て普通商人の素質を具備せしめざる可からず濫りに苦使して何等智能を啓發せしめざるは酷なり彼れの前途遠遠にして又有望なり一度奮闘努力すれば未來の大商人たるに難からず故に店主は自己打算以外に彼れの將來を顧慮し以て相當の方法を講じられん事を冀がふ」

廢物利用

一家には廢物あるを認む一度之を利用すれば何等かの用に供せらるべし之に加工して賣却すれば家事經濟上雜收入として幾分か補給する事を得べし濫りに破棄す可からず」

嘘之効力

嘘は取引上の武器にして又同時に自己擁護の利刀なり就中商人の取引は嘘にして能く之を善用して始めて効果あるべし社會に於ても嘘は一種の常套語の如く應用せられ之に打勝つものは月桂冠を得べし又野卑の例なれども藝娼妓輩の如き間断なく嘘の情實を交換し恬として耻ぢす幾多の青年遊治郎を腦殺せしむ洵に寒心に堪へざる處なり特に尙ほ之を大にして社會乃至政争の上に及ぼすは疚しき限りなり故に嘘を善用すれば覇者となり悪用すれば敗者となる晩近世は澆季に傾むき道徳人情を無視し公然嘘の慣習を敢へてするは洵に痛嘆の至りなり」

贈答

盆正月其他一朝事あるに際し金品の贈答を爲すは古來の慣例にして美風たるに似たり然れども濫りに高價の物品を交換して恬として顧みざるに至つては虚禮の太甚しきものにして各自の地位境遇に應じて之を實行すれば足れり又最も極端なるものに至つては無理算段をして多大なる高價品を贈り以て先方の歡心を買はんと欲するが如きは愚の極にして宜しく質實を尊重し形式を度外し始めて眞の禮儀に叶ふものなれば一に精神上の交換を主とし物質を避けざる可からず」

浪花節

浪花節は武士道を鼓吹する唯一の歌曲にして大正聖代に在つては人情兎角浮華輕佻に流れ稍もすれば遊惰に失するの嫌いあり之を矯正するには浪花節に如くものなし所謂治に居つて亂を忘れず扶桑國傳來の大和魂の精華を發揮して余蘊なきと同時に此節を除き他に何をか求めんや俗間流行する處のもの往々野卑に傾むき反つて其眞價を傷くるものあるは大に遺憾に堪へざる處なり就中浪界の權威者は聽者をして無限の感動を興へ精神爽快を覺ゆ特に元祿快舉の一段に至つては身体凜乎として言ふ可からざる快感を惹起す要するに浪花節は社會に對し幾分の裨益あるを確信し茲に益獎勵の必要ある所以なり」

無學之學問

正式に學校を出でざるも世間老幼男女を問はず所謂「物知り」なるもの各地に散在す彼の漁夫の風位速力を鑑知し農民の天候を豫測する等之れ數十百年來の經驗に據る賜物にして一言半句正鵠を得て的中せざる事なし然るに世間青拍子と云ふて半熟の學問を修得するものあり危險之より大なるはなし一朝にして一身を誤まるなきを保し難し眞理は幾萬の讀書を繕くよりも漁農の平凡なる片言隻語を以て足れり万論は歸一なり然らば喋々しき冗文よりも漁農の短句を以て至れり盡せりと云ふべし」

角力

角力は大古野見宿禰の創設にして本邦古來の國技なり宜なる哉歴代の天皇苑裡に臨御して叙覽の榮を賜

ふ洵に角力は武道の眞髓を發揮して大和魂の精華を實現したる一種の技藝なり大關横綱小結等夫々役目ありて木村庄之助代々行司を繼承して勝負を決す力士としては梅か谷常陸山嵐小錦等の面々東西に割據して滿を持す又角力協會ありて力士を保護す然れども力士たるや頽齡に及んで何等爲す處なく所謂獨活の大木に均しき感あるは遺憾に堪へざる處なり偶々之あるも劇場又は興行場の勸進元たるに止まり又八百長と云ふて力士の手を捏造するが如きは全く滑稽に類すれども觀客の歡心を買ふものとすれば又止むを得ざるなり今や民心遊惰の惡風傳播し太甚だ憂慮に堪へざるものあり此秋に際し各地に巡業して元氣潑洩たる偉態を觀覽せしめ以て泰平の夢を破り國家の根本たる元氣を恢復し一方國難に處するも亦力士の本務にあらざる乎」

易學

易學は科學中の最高學府にして森羅万象を鑑知し過去に現在に未來に何れの点に於ても的中せざる事なし本邦の泰斗高島先生の如きは自己の死期を易斷に據つて未前に窺知し又故伊藤公と日清戰役の必勝を易術に據つて豫測したりと傳聞す寔に深玄不可思議と云ふべし然れども市井高島先生の門弟と稱し喋々衆人を鑑定すれども這は自己の淺學短識にして其濫臆を窮めずして鑑定するが故に往々常規を脱して命中せざる事なり之れ研鑽の足らざる罪にして古來當るも八野當らぬも八野と云ふと雖も其學堂に入つて奥に入らざるに職由するものにして決して的中せざる事なし全く練磨の足らざるに據るものなり」

運命

一八

人間に運命なるものありや古來の傳説に據れば初運にして向上せざれば中運にして發展し尙ほ開運せざれば晩運にして成功すと云ふ果して然るや牡丹餅は棚に在り果報は寢て待てと口傳すれども實際は然らずと史料す何事も事實を實現して始めて其果を獲得するものにして必らず之が因なくんばあらず然れども世上有爲の士にして失敗し愚鈍無爲の輩にして成功す洵に矛盾と云ふの外なし思ふに運は機先を制するものにして初めて能く之を獲得するものにして何ぞ貴賤貧富を論せんや要するに事に當り英斷敢行の處置に出て優柔不斷の行爲ある可からず之れ運に接近する導火線ならん乎』

質屋公設

質物は當座の融通上極めて至利至便にして細民は素より一般階級に至るまで一日も必要不可欠金融機關なり然るに從來の利息は僅か一日にして一ヶ月の利率を支拂さる可らざるに至つては酷も亦太甚しと云ふべし道義上輕々に附す可からず故に差等を置き公平に取扱ふを要す據つて公設質物營業所を設置し時價に應じて貸出し可成的質置人の利便を謀り以て素志に添はしむべし』

風景

美なる哉此山川四海繞環清透の氣眞に掬すべきものあり北は北海道西は西海道到る處靈岳雲表に聳へ其

美觀實に名狀すべからず河海には潑瀾たる群鱗跳躍し快感を添ふ東海には白扇懸倒東海天三國一の富士峰冲天に直立し其秀靈天下に冠絶たり其他溥天の下率土の濱到る處名勝佳蹟擧げて數ふるに遑あらんや美なる哉此の極東大日本帝國噫』

櫻花國

人は武士花は櫻と實に我邦は古來武を以て立國の基礎となし花は櫻樹を以て萬木の魁となす宜なる哉能く大和魂の精華を發揮して餘蘊なし花は吉野を以て第一となし關東は向島上野飛鳥山小金井等之に亞ぎ關西は京都嵐山祇園以西は遠く周防岩國吉香園の櫻花は艶中の艶なるものか夫れ祖先以來命を鴻毛の輕きに附し義を泰山の重きに置く故に凝つては百鍊の鐵となり散つては萬朶の花となり死を見ること歸するが如く以て君命に殉ず故に國強く無窮に滅亡する事なし』

菊花國

菊花は秋霜烈日に咲き黃白青赤紫等其種類頗る夥多し我邦固有の名花にして畏れ多くも皇室の御紋章として汎く萬民の拜戴する處全國到る處籬裡に植栽して國恩の高大なるを偲ばしめ常に賞寵して措かず佛壇盆鉢又は寔會の裝飾として之を供用す其容姿の凜乎として犯す可からざるは大に誇りとする處なり實に櫻花と相俟つて本邦の名花として世界の瞻仰に資すべき價值あり』

酒

二〇

儀狄一度酒を造り麴蘖の香天下に遍ねし昔者桀紂酒池肉林の豪借後世之を咎むるは行爲の過ぎたるものあればなり若し斗酒意氣呑牛の器あらば何ぞ妖魔に社稷を亡ぼさんや七賢能く酒を飲んで賢名を失はず劉氏酒徳の頌を造り玩氏又能く飲んで腹便々たり由之觀是能く酒を飲むと酒能く人を酔はしむると各皆之れ其人に存して酒に存せず夫れ酒は之を利用すれば百藥の長となり之を濫用すれば百毒の魁となる世上禍惡を酒に嫁するは一種の偏見にして誤まれるも亦太甚しと云ふべし酒は之れ憂苦を一掃すると同時に志氣を鼓舞する興奮劑にして其効用極めて大なり我國古來冠婚葬祭は素より吉凶慶吊に至るまで酒を使用せざるなく儀式上必要不可欠ものにして又實に酒は天の美祿と云ひ之を節用すれば血液の循環を旺盛ならしめ衛生上有益なる飲料とす故に平素此の佳釀を節用して以て天壽を全ふせん事を望む』

美人

京都女に東京の髪を結はしめ長崎の氣前を持たしめ始めて現代式美人の典型とす就中丸顔にして愛嬌能く交際上手にして社交界の花たらざるも一種の異彩を放つべき素質を具備し風采楚楚動作又活潑なるを要す而して美人の産地は京都を第一とし名古屋之に亞ぎ北越及東北地方又多く産出す降雪の關係に據るものならんか兎も角小野小町楊貴妃を夢みすとも如上京都東京長崎の三條件を具備すれば以て理想の美人たるに庶幾乎』

戀愛

愛は人間相互の本源にして宗教も道徳も愛を基礎とし斷罪の法律も亦愛の立法を精神とす人類の博愛を異性の間に局限して愛情となり戀愛となり其愛を無事に保ちて夫婦となるべきは人生の目的なれども愛は移り易く情は動き易し愛の究極は愛の抱擁となり異性の接觸は自然の本能より生じ痴情痴態と罵しり色即是空と叫ぶも男女交接の裡に生れ來れる本來の天則にして禁慾主義者に非ざる限りは之を否定すること能はざるべし故に戀愛は最も神聖なるものとして取扱はれ戀愛の發芽は相惚れに始まり夫婦に終る所謂戀の重荷を卸したるものにして茲に戀を圓滿に完結したるものなり世間戀の片思い又は無理心中など實に不自然の極にして大に慎しまざる可からず』

色情

英雄色を好み豪傑酒を嗜むとは古來の傳説なれども這是身體強健元氣旺盛なるに基因するものにして英雄豪傑たらざるも酒色を好愛するもの滔々天下に乏しからず特に鏗鏘壯者を凌ぐ老爺が往々女色に耽溺し又薄志弱行無氣力の青年が酒色の爲め一身を誤まるは實に浩嘆に堪へざる處なり古來色慾を以て首惡なりとし最も慎しみ來れり宜しく此の邪念を排除し戰慾的行動を制し以て身を亡ぼし産を破らざらん事

を熱望する次第なり』

刑 罰

刑罰は人權を尊重する文明の今日可成的之を軽減せざる可からず然るに往々微罪すら拘留に處し又夜半通行の徒輩に浮浪罪を以て又拘留に處す神經過敏と云ふの外なし特に拘留日數長きに失し寔に苛酷なりと云ふべし今や死刑廢止の議論旺盛なる秋に際會し當局者大に猛省して可なり』

殺 生

殺人は自殺に據ると他殺に據るとに論なく統計の示す處に據れば我國最も多數なるか如し其原因多々あれども失戀失敗病苦生活難等は其最も顯著なる事例なりとす而して其方法をしては盜死轢死入水などありて最も極端なるものは華嚴の瀧壺淺間山の噴火口等は特筆すべき價値あり西洋には自殺會ありて可成的簡易に且つ苦痛尠なき方法を研究すと云ふ宜なる哉苦痛を短縮するは人情の常にして大に同情すべき点あり然るに我國古昔割腹を以て自殺の最善なる手段とせり今より之を思へば實に野蠻の極にして寧ろ滑稽なるかを疑がふ然りと雖ども其死するに當つて正々堂々死を見ること歸するが如く之れ武士の大和魂ある所以なり方今の死は徒らに醜名を天下に晒す而已にして恐らく本人も亦地下に瞑せざるべし如かず銃殺の瞬間にして苦痛の短少なる之れ文明的自殺にして動作の活潑なるに於てをや』

後 進 部 落

穢多一名山窩は各地方の一隅に隔離して同族棟を列べて住居す就中社交を避くるものゝ如し抑も穢多是即ち讀んで字の如く汚穢なる業体を營なむを以て自然一般の忌避に觸れ遂に今日に及べるものなり方今水平社なる団体各地に勃興し盛んに社會に對し對抗するものゝ如し然れども何等其要領を得ずして捕捉するに苦しむ若し夫れ正々堂々活動するとせば宜しく人格を尊重し業体を改廢し以て大に爲すべし今や同族間にして判事あり檢事あり辯護士あり其他有力なる地位に列するものあり大正聖代に在つては平民として何等の懸隔ある事なし故に將來自重以て一般に對峙すべし』

寸 鐵 錄

◎輓近道義地を掃い人情又輕薄浮華に流る寔に寒心に堪へざる處なり彼の鳥の反哺の孝あり鳩の三種の禮あり其他燒野の雉子夜の鶴夫々自然の情を尊重するや切なり人間にして倫常を顧慮せず脱線的行動あるもの豊禽獸に耻づる處なき乎

◎婦人の面前に於て他の婦人の事を賞讃すること勿れ大に感情を傷くるや必せり多くの婦人は猜疑嫉妬の念強し之れ大に注意を要する所以なり

◎白扇懸倒東海天八面玲瓏芙蓉峰之れ三國一なる靈岳富士山を讚美したる名句なり然れども一度裏面に

迂繞して之を瞥見すれば靈は靈なれども山容醜態名狀すべからざるものあり人又然り表面の美を裝飾すと雖ども其胸奥や實に言語に絶するものあるべし宜しく眞善美を發揮して偽惡醜を排除せよ

◎人若し瑕を指させば用ゆべき士なし善を掩へば擧ぐべきの人なし滔々たる社會今日ほど人物拂底の太甚しきものなし偉人傑士を夢みずとも人格學識高遠の士を俟つや切なり

◎人は多く假面なり假りに樽裡に湯水を滿入して之を震蕩すれども鳴らず空虛ありて始めて其聲を放つ熱狂なる勿れ冷靜なるべし人に不滿あれば叫ぶ

◎酒は人を鑑別する試金石なり一度酔へば赤裸々天真を發揮して餘蘊なし酒の効能も亦偉大なりと云ふべし

◎笑は人間の行爲中樂觀的動作にして又生命を保護する安全瓣なり故に四六時中間斷なく大に笑つて天壽を全ふすべし

◎支那の古聖は糞中尙ほ道ありと遺訓し又我國の俚諺にも寢糞を垂れても一理窟と放語す極端に似て然かも理窟井然たり理窟は筆舌の運用に決定するものなり

◎善惡の區別

善の部

慈善。救濟。施與。寄附。義捐。公共事業。白。(積極觀察)

惡の部

不忠。不孝。不悌。不信。殺人。詐欺。竊盜。亂酒。陰謀。黑。(消極觀察)

戀愛條件

愛。色男。色女。色事。色目。色仕掛。以心傳心。一生懸命。浮名。浮沈。薄化粧。有頂天。腕。表裏。一途。陰部。媾曳。相塊。憧憬。其他。

附

錄

詩

尾道五景 (自稱)

山波名月

西國寺古刹

千光寺鐘聲

小歌島帆影

向島春景

以上

山波明月

醉來須學披翁遊

今夜清吟俱賞月

西國寺古刹

關西第一大伽藍

映眼山光猶見畫

我亦與朋買小舟

波光如畫入詩眸

寶塔聳空抽翠嵐

老僧誘我入禪庵

千光寺鐘聲

夕暮雅敷隊群
鐘聲百八閑侵耳

西天春處夕陽雲
媚々餘音響萬斤

小歌鳥帆影

知是三春花盛時
看山眺水快心事

煙霞繞處趣尤奇
余興新題七絕詩

向島春景

伊勢大廟

四海人瞻仰
社前正襟座

深仁鎮日東
五十鈴流風

琴平神社

偉哉神德與年新
早已綿蠻梅樹裏

拜跪萬人仰社宸
象頭山畔踏花春

高見山沖所見

忽濤澎湃將沈船
忽霽忽陰風未定

禽影影看沒水煙
回首薄暮斜照天

高野山

規模宏大奚堪驚
賽客往來香不絕

淨土無塵心自語
山靈叫處感多情

追吊双親

鶴眠松影壽千秋
彷彿英靈如喚我

月照梅花香自稠
曉鶉破夢復何求

追想亡妣

雨後肅條四壁淋
夢醒追想慈親母

杜鵑啼血夜沈々
月呀風凉感慨深

參照

先考 院號 松林院釋鶴壽居士
先妣 全 梅影院釋月香大姉

追慕祖先

元祿史篇快鐵腸 讀來讀去感無疆
忠雄義烈雪天夜 老士竹林千載香

誕生日

我年五十未成功 夢裡醉生奈厥終
偶會誕生感無量 獨吟只在病牀中

和歌

心から真如の月の冴え渡り

彌陀の御光に浴びる嬉しさ

千代八千代睦まじく長らえて

夫唱婦和家の礎

雨露に打たるればこそもみじ葉の

錦を飾る時は來にけり

人の身と水の流れは飛鳥川

昨日の淵は今日の瀬となる

谷川の水の流れも大海に

出るまで暫し木の葉の下くゝらん

親まさは斯くせんものと思へども

今は風樹の嘆き獨り悲しさ

俳句

編笠の隙きより漏るゝ暑さかな
雪の夜や卍巴に鐘凍る

大津繪

尾道名所々見

尾道の名所を細まかに數ふれば。千光寺の烏帽子岩。西國淨土の大伽藍。遙か向ふに山波の月世界。汽船の來往織るがよふに。大小帆掛船數限りなく。げに繁華の港しかないわいな。

尾道名所々見	千光寺の烏帽子岩	西國淨土の大伽藍	遙か向ふに山波の月世界	汽船の來往織るがよふに	大小帆掛船數限りなく	げに繁華の港しかないわいな
--------	----------	----------	-------------	-------------	------------	---------------

大津繪

尾道名所々見

尾道の名所を細まかに数ふれば、千光寺の烏帽子岩、西國淨土の大伽藍、遙か向ふに山波の月世界、汽船の來往繰るがよふに、大小帆掛船數限りなく、常に繁華の港しかならぬ。

賛助者及廣告

<p>山陽日報社長 中山幾太郎</p>	<p>備後時事新報 岩本梅太郎</p>	<p>備後本場疊表同業組合長 美藤昇作</p>	<p>土屋酒造株式會社 土屋清三郎</p>
<p>市會議員 小林徳太郎</p>	<p>帆布商 倉田新助</p>	<p>尾道商業會議所書記長 小倉義一郎</p>	<p>大勝利足袋本家 白神小三郎</p>

橋本龍一	尾道市長 向井團次	福山市長 阿武信一	福山市 神野利右衛門	福山市 池田東五郎
尾道稅務署長 川口又吉	尾道警察署長 杉原謙一	尾道市助役 奥山源三郎	尾道市收入役 本森市三郎	尾道電氣株式會社 牧田源太郎

廣安一郎	向島船渠 泉京次郎	島居藥店	山根源四郎	林新七
山路邦吉郎	吉田熊一	岡本脩吉	柏原貞助	葛西熊次郎

廣島電氣株式會社福山支店

野田小兒科院	村上醫院	小川醫院	國府醫院	岡田康太郎
角田醫院	小田醫院	水戶醫院	高龜醫院	大石醫院

<small>辯護士</small> 山科慎次郎	岡田最平	福田久次郎	福島利助	野間直兵衛
岩堂醫院	<small>醫師</small> 吉田醫院	深谷長之助	高尾英	大西虎造

專 門 { ち } 門

出張所

尾道市久保町

(大好東隣)

出張日

(一) 土曜日正午ヨリ翌日日曜日
午前八時迄

(二) 水曜日正午ヨリ午後十時迄
診療ス

△本院

広島縣忠海町

原田醫院

電三十八番

入院隨意

黒瀬醫院

女醫

越智醫院

三好齒科醫院

岸田齒科醫院

佐竹齒科醫院

岡崎眼科院

上田眼科院

堀田眼科院

松本眼科院

長江町十丁目
御調院
藤原整骨院

尾道家畜病院

青山丹治雄郎

三軒屋

宮地醫院

縣立尾道商業學校長

前田清

尾道中學校長

吉本佐吉

尾道高等女學校長

佐藤良都知

尾道商業實務學校長

山口 筆太郎

八幡宮司

永井僚太郎

全 久保尋常小學校長

妹尾 茂吉

長神社宮司

永井三千三

全 筒湯尋常小學校長

兒玉 九市

天滿宮司

菅原壽人

全 長江尋常小學校長

土屋 丈之助

市會議員

黑塚貞吉

全 土堂尋常小學校長

野本 轍

三宅要次郎

秋元 鯉太郎

寺西 治兵衛

堀田 民之助

小山 卯八

大石 平助

高垣 亞松

宮邊 岩吉

瀧迫 次作

吉野 三次郎

藤田 伊三郎

尾道商業會議所副會頭

坂井善兵衛

全
常議員

田中良七

全
常議員

伯田兼次郎

全
常議員

福田邦助

全
常議員

宮崎富助

煙草元賣捌

手塚虎藏

鋪商

其阿彌德三郎

鋪商

樋口政兵衛

橋本肥料店

石油發動機
諸機械製作

⊕ 古島屋鐵工所

備後本場疊表同業組合
事務所

廣島縣酢造同業組合

尾道酒造用品商會

尾道活版所

西原銀行
西原善平

土
堂
町


桑原紙店

富永貫一

國貞吳服店

村田吳服店

勉強屋吳服店

木村平助	廣川久助	富安商店	高垣質店 <small>三軒屋</small>	今井樓本店
<small>紐育スタンダード會社石田特約代理店</small>  桑原榮助 <small>話長百七十四番</small>	小林良人	宮野茂十郎	見永廣洋軒	土井勝彦

高榊藤一	<small>莫産商</small> 三上卯作	長原治郎平	山本増三	桐山秀太郎
布のや	荒井源次郎	立田増太郎	宮地勝次郎	土屋勝三郎

西原銀行 西原善平	尾道公論社員一同	美藤昇作	藤本新聞舍	今井樓本店
大勝利足袋本家 白神小三郎	世羅政之助	自轉車販賣業 共盛商會	土屋酒造株式會社	商業資金合資會社 社長 駒居清一郎

松本達三	山本源吉	井口內科醫院	澤田齒科醫院	岡崎石太郎
尾道公論社長 向井亮介	尾道市土堂町商業會議所東 生徒募集 シンガー機械裁縫女學院 主任 藤原清三	土堂町警察署西 深川滿太郎	シンガーミシン販賣並教授 開西ミシン裁縫女學院	仁田雅吉

澤田儀助	藤井定二郎	山下正三郎	木綿九	金萬堂
大山新助	蒲鉾商 魚五郎商店	牛肉販賣 倉田支店	牛肉販賣 いろは牛肉店	圓福寺常太郎

紙商 内海得次郎	紙商 内海白鶴堂	渡場 佐藤煙草店	長江町 角豊旅館 電話長一二二番	美濃屋商店
藥商 小川覺藏	藥商 辻本重太郎	藥商 澁谷藥店	藥商 辻本竹次郎	吉本眼鏡店

三軒屋 天野彦三	海岸通 米雜穀商 湯川利一	三軒屋 高垣質店	下向酒場支店	寺岡吳服店
向島 三上以尙	向島 安保慕作	向島 吉原大作	本町 岡田仙次郎	洋服商 福井庫一

書林 北辰舍	書林 兒玉芸香堂	骨董商 多田良助	書畫商 關原音次郎	小川久回漕店
小西組吳服店	小林元吉	鍋島吾助	堀家イツ	防地 白川朝春園

尾道市本町

航布商
倉田商店

電話二十四番

尾道市

帆布商
小西庄兵衛

帆布商
田中良七

船具商
高橋靜男

優等銘酒

三吉正宗特約店
竹田姬釀造發賣元

原田支店

電話長六二九番



株式會社

渡瀨屋吳服店

長江町

疊表商 中前貞太郎

306

786

倉田一三

向島

岸本辰十

串間幾太郎

福山市府中町

宮永印刷所

電話四二四番

大正十四年九月二十日印刷
大正十四年九月廿五日發行

著述者 尾道市長江町一丁目 野曾原 巧

印刷人 福山市府中町一七番地 宮永三郎

印刷所 福山市府中町一七番地 宮永印刷所

306
786

大正十四年九月二十日印刷
大正十四年九月廿五日發行

著述者 尾道市長江町一丁目
野曾原

印刷人 福山市府中町一七番地
宮永三郎

印刷所 福山市府中町一七番地
宮永印刷所



倉田一三

岸本辰十

申間幾太郎

福山市府中町
宮永印刷所
電話四二四番

終